

三島由紀夫がギリシヤ悲劇に材を得、日本人の魂を抉る書き下ろし野心作

劇団NLT十月公演

昭和四十二年度

芸術祭参加作品「文芸」十月号所載

朱雀家の滅亡

四幕

エウリピデスの「ヘラクレス」に據る

作 三島由紀夫

演出 松浦竹夫

出演

中村伸郎

中山 仁

南 美江

村松英子

村上冬樹

装置 織田 音也
照明 浅沼 貢
音楽 藤井 凡大
効果 吉田美能留
制作 三木 治

十月十三日(初日)→二十九日

毎夕六時三〇分開演●十九日休演

土・日マチネー一時三〇分開演(但し日曜日はマチネーのみ)

全席指定A—一〇〇〇円 B—八〇〇円

紀伊國屋ホール 新宿

紀伊國屋インフォメーション

都内各プレイガイド・

NLT事務所にて前売申

電話予約(四〇三)二七六三





滅びゆく大日本帝国と

滅びゆく青春と愛と

その死灰の底から

美しい女神がよみがえった

「朱雀家の滅亡」四幕は、芸術祭賞を獲得した「サド侯爵夫人」について、三島由紀夫が再度NLTのために書き下ろした大作です。ギリシア悲劇に発想を得たこの作品は、大日本帝国が崩壊する敗戦前後の四季を舞台に、おのれの忠節を守るため、子を死に追いこみ、妻を殺すという狂気に襲われる堂上華族の当主を通して、滅びゆくものと、蘇がえるもの、日本人の魂の中の古い美しい秩序と荒々しい生命力との対決を描いた野心作です。演出には、三島戯曲の舞台化で定評のある、松浦竹夫があたり、古典的な格調の高い舞台を現出するにちがいありません。

キャストは、子を殺し、妻を殺し、なお、孤忠に生きようとする当主朱雀経隆に、「十日の菊」、「鹿鳴館」他で重厚な演技を見せた中村伸郎。その父を恐れながらも愛し、激戦の孤島に死を賭して出征する経広に中山仁。日蔭者の宿命のなかで、悲しみと憤りにもえる女おれいに「サド侯爵夫人」、「ヴァージニア・ウルフなんか恐くない」の南美江。経広の恋人で、己を捨ててまで、恋人を守ろうとする令嬢璃津子に、「鹿鳴館」のヒロイン朝子を演じた村松英子。経隆の実直な弟、光康に、村上冬樹が扮します。

「文芸」十月号所載



中村伸郎



中山仁



南美江



村松英子



村上冬樹

牛乳の栄養が生きている

さわやかな おいしさ……



乳酸飲料
大ビン 280円 / 中ビン 160円
カルピス